

中学校の運動部活動は、こんなふうに行われています！

～平成22年度中学校運動部活動アンケート結果から～

長野県教育委員会事務局スポーツ課

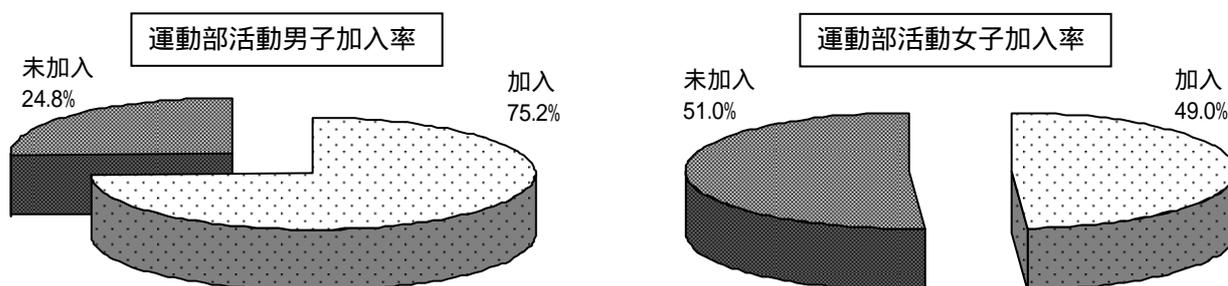


調査時期 平成22年6月～7月
対象学校 県内公立中学校189校
調査方法 質問紙法

21年度のデータについては、新設校である富士見中学校、城南中学校、城北中学校の値は含まれていません。

1 どのくらいの中学生が運動部活動で活動しているの？

38,482名〔男子 23,745名 女子 14,737名〕が活動しています。これは県下の中学生の62.3%に当たります。男女別の加入率は男子が74.8%、女子が49.0%になります。



2 複数の入部は認められるの？

複数の入部を認めない学校が多く、81.5%になります。冬季スポーツ(スキー・スケート)との複数入部や大会参加のために暫定的に複数入部を認めている学校があります。

3 仮入部はみんなあるの？

仮入部は、96.8%の学校で実施し、実際に活動を体験した上で、正式に入部することになっています。実施していない学校は、小規模校で、部数の少ないところです。

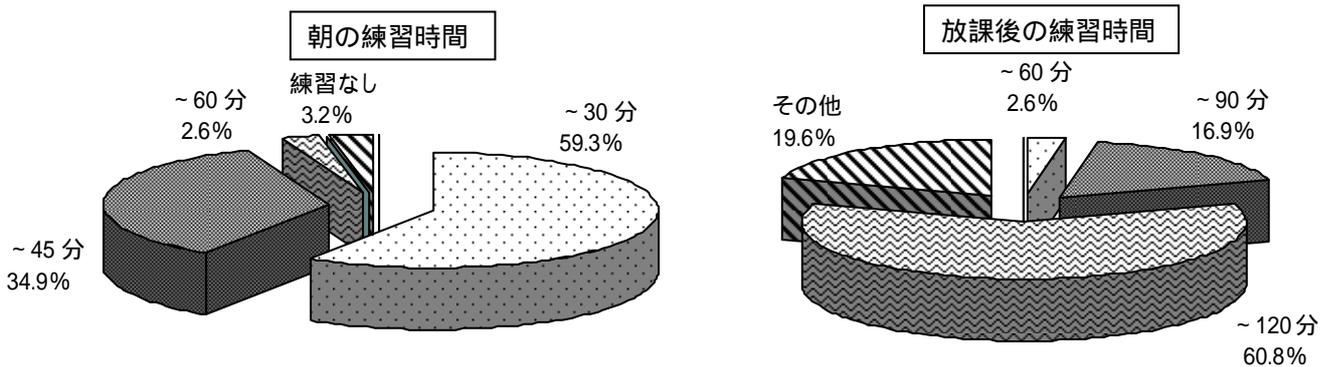
4 活動計画は誰が立案しているの？

顧問が立案している学校が27.5%、生徒の意見を聞きながら共に立案している学校が22.2%あります。最も多いのは、顧問が保護者や外部指導者と協議して立案する学校で、47.1%でした。

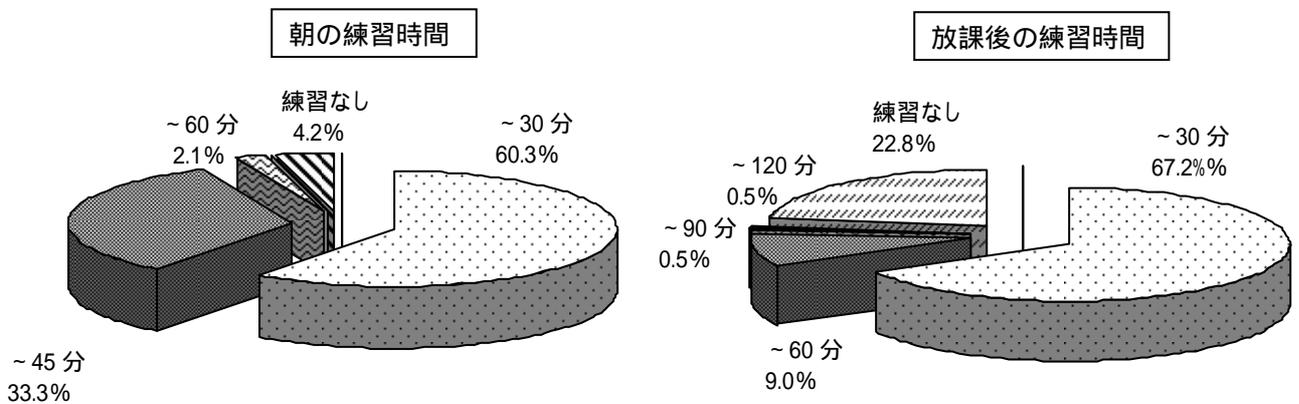
5 どのくらい練習しているの？

放課後の練習時間を、シーズン中とシーズンオフで切り替えている学校が多くあります。1年を通じて朝の練習を実施していない学校は7校あります。

【シーズン中・・・中体連の本大会が盛んな主に一学期】



【シーズンオフ・・・中体連の新人大会のある二学期から冬の練習】



6 大会前の練習時間は、どうしているの？

大会前(1ヶ月前~2週間前が多い)は、各学校とも生徒が十分に練習時間を確保できるよう配慮しています。

練習時間を延長する

学校一斉の休日も練習可能とする

土曜日・日曜日も練習可能とする

日課を弾力的に運用する

などがあります。

これらの活動は、生徒の健康面や帰宅時の安全面(下校時刻の厳守など)を十分考慮し、学校長の指導のもと、全職員、保護者の理解を得て進めています。



7 休日(放課後 ノー部活デー)の実態は？

休日を一齐に設けている学校は82.0%あり、一齐ではないが各部ごとに休日を設けている学校は6.3%ありました。約89%の学校で休日を設定していることになります。

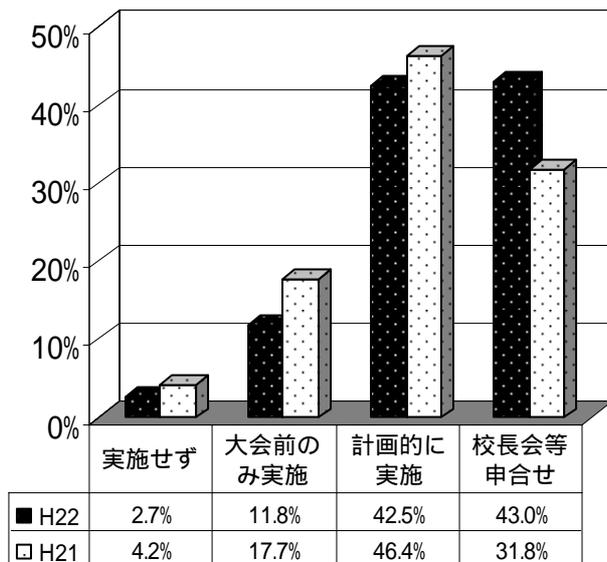
休日の設定は、月曜日・水曜日が多くなっています。

8 週休日等の部活動は？

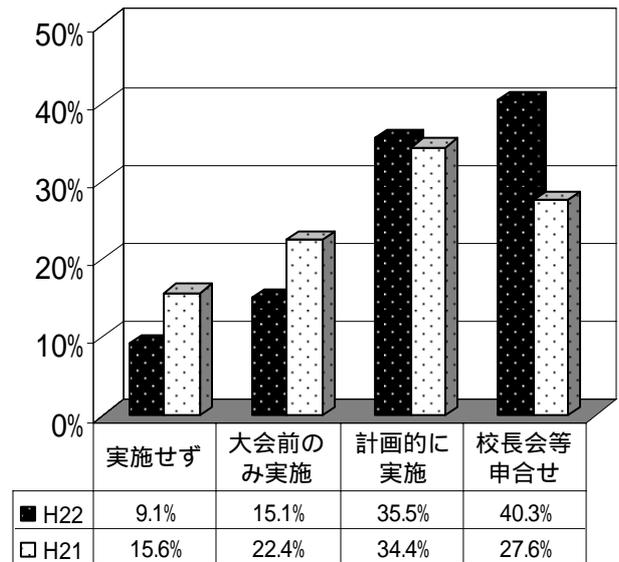
土曜日、日曜日・祝祭日ともに、一番多いのは、「郡市校長会等の申し合わせ」でした。昨年度から、この項目の回答数が増えはじめ、昨年度は二番、今年度はついに一番となりました。

実施にあたっては、保護者の理解を得て、土曜日、又は、日曜日のどちらか一日を休みにする、実施しても半日のみとするという学校が多く見られます。

【土曜日】



【日曜日・祝祭日】



9 保護者への理解は？

保護者と懇談会を実施している部がある学校 100%

部活動参観を実施している部がある学校 約89%

部活動通信を出している部がある学校 約87%

学校一齐に部活動に関する懇談会を実施している学校は93.1%あり、活動に対する理解が得られるよう取り組んでいます。

また、多くの学校で「部活動通信」「学級・学年だより」「PTA新聞」等により、保護者へ活動の紹介・連絡等が行われています。

地域の方と部活動に関する懇談会を実施している学校は約34%あります。

(18年度 29% 19年度 32% 20年度 35% 21年度 36%)

10 合同部活動は必要？

少子化による部員数の減少などにより、大会に出場できない部や活動が継続できない部を抱えている学校があります。このため、今後、合同部活動が必要になると考えている学校が122校(約65%)あります。22年度は19校・21の部で合同部活動が実施される予定です。

【部員不足のため21年度大会に出場できなかった部】

12部(20年度 8部)

【22年度から廃部等になった部】

20部(20年度 21部)

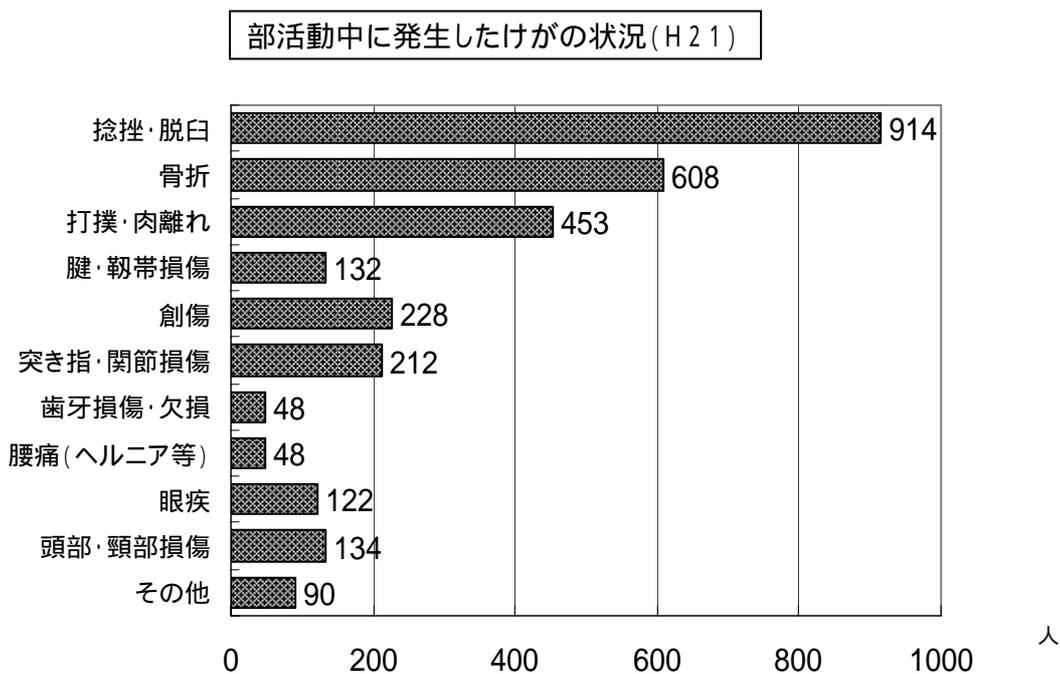
【近隣校との合同部活動の必要性】

今後必要である 64.6%



11 部活動中に多いケガは？

ケガの発生率は、全運動部員数の約7.6%(20年度 約8.1%)でした。



件数は21年度日本スポーツ振興センターへ申請されたものです

12 顧問は専門家？

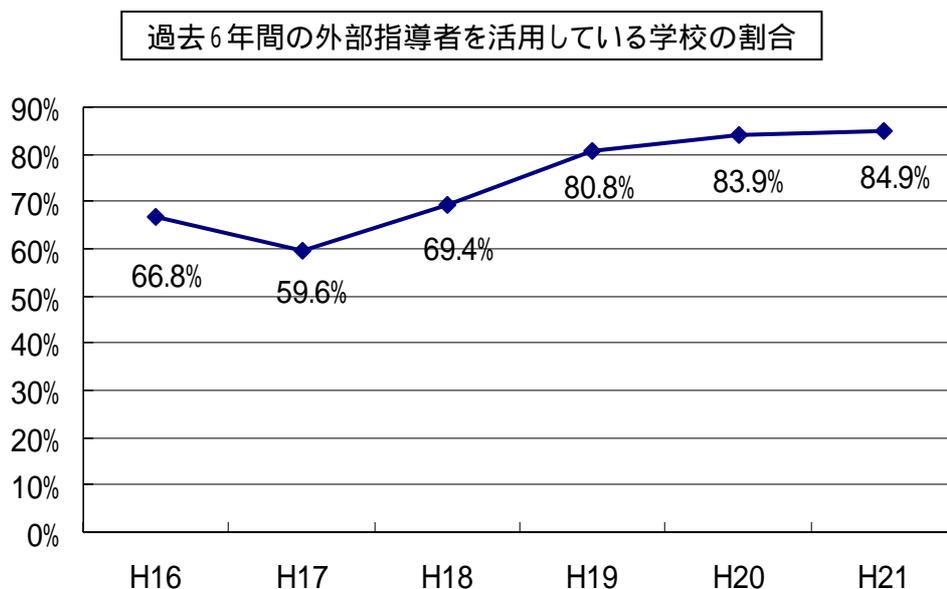
運動部の指導に携わっている顧問は、2,805人います。そのうち運動経験がなかったり自分の専門外の種目を指導したりしている顧問は、約62%(1,661人)います。

13 外部指導者の活用は？

21年度は158校(約85%)で751人の外部指導者が活用されました。外部指導者として地域の方々が活用される機会が増えています。

新設校の3校分のデータが含まれていませんので、実質的には増加していることとなります。

(20年度は161校(約84%)で755人が活用)



14 スポーツ活動運営委員会の設置は？

地域・学校・家庭がともに力を合わせ、生涯学習の一環としてのスポーツ活動を生徒に保障するため、県教委が中学校への設置を推進している「スポーツ活動運営委員会」は、H22.6月現在、130校に設置されています。組織のメンバーには、校長、教頭、部活動主任、養護教諭などの学校関係者のほか、市町村教育委員会、保護者、外部指導者、体育指導委員、体育協会役員、民生委員、体育協会、公民館主事、スポーツ少年団の代表等々、多くの地域の方々にもご参加いただいております。

15 総合型地域スポーツクラブと部活動の関係は？

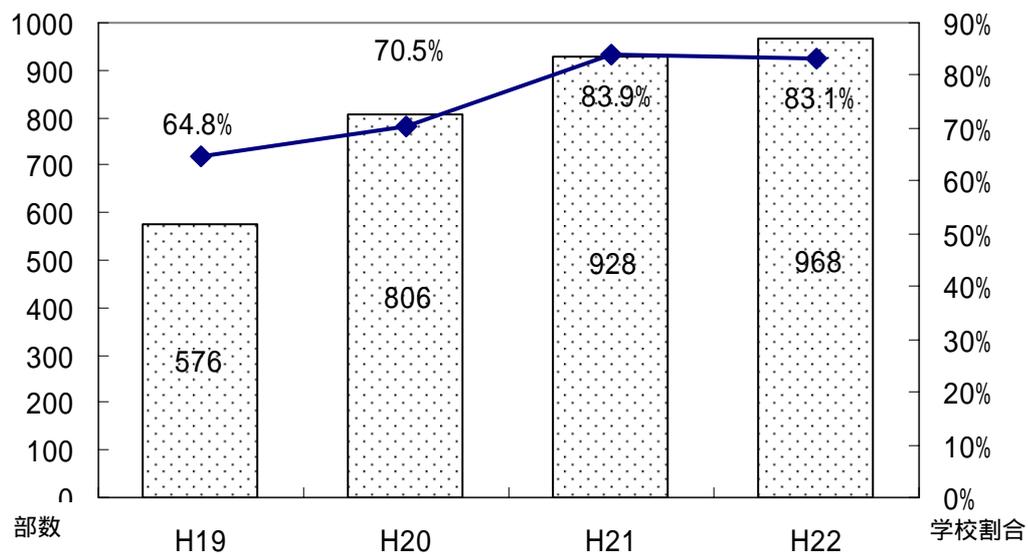
現在、総合型地域スポーツクラブが校区に設立されている中学校は40校あり、そのうち28校で部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が図られています。また、校区で立ち上げが進められている中学校は12校あり、総合型地域スポーツクラブとのより良い関係を探っていこうとしています。

16 学校の運動部活動以外でも活動しているところは？

(1) 運動部活動終了後や日曜・祝日などに、地域のスポーツクラブ(社会体育)として活動している運動部は、968部(157校・83.1%)あります。

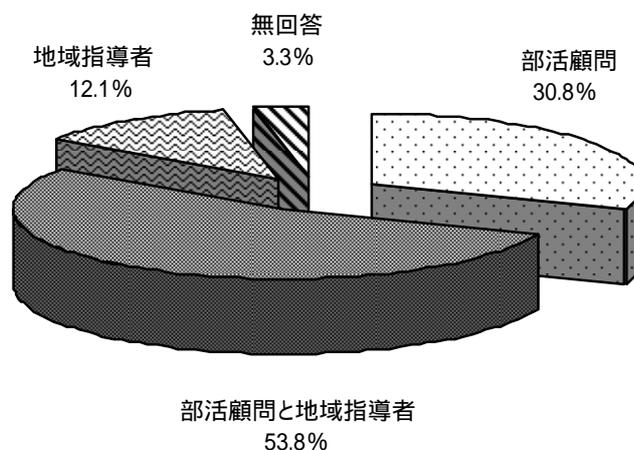
(21年度 928部 161校 約83.9%の学校)

地域のスポーツクラブとしての活動状況



(2) 運動部の顧問だけで指導がされている部は30.8%、顧問と地域の指導者によって指導がされている部は53.8%、地域の指導者だけに指導されている部は12.1%あります。

地域のスポーツクラブの指導者



< 部活動休息日 >

- ・昨年度まで、放課後、学校一斉の部活動休息日を定めている学校は、全体の7割だったのですが、今年度、初めて8割を越えました。
- ・朝、学校一斉の部活動休息日を定めている学校は、全体の76.2%。朝、放課後とも、学校一斉の部活動休息日を定めている学校は67.2%でした。

< 週休日等の部活動 >

- ・土曜日、日曜日・祝祭日の部活動については、「郡市校長会等の申し合わせ、確認事項により実施した」と回答した学校が一番多く、続いて、「年間を通して計画的に実施した」、「大会前のみ実施した」という回答が続きました。

< 地域のスポーツクラブでの活動等 >

- ・地域のスポーツクラブと連携していると回答した部活動は968部で、全1480部のうちの65.4%でした。
- ・地域のスポーツクラブの指導者は、「学校の部活動顧問と地域の指導者」で当たる場合が最も多く、その後、「学校の部活顧問のみ」、「地域の指導者のみ」という回答が続きました。

これまで、長野県教育委員会は、

- ・週休日等においては、原則として、部活動を行なわないこと
- ・月曜日から金曜日の間において、学校全体で部活動を行なわない日を設けるよう努めること

をお願いしてきています。これには、生徒の学校生活にゆとりを確保し、健康を保持することと、職員の勤務と休暇を保障するという目的があります。

一方、週休日、休日のスポーツ活動を保障するため、

- ・可能な限り地域のスポーツクラブとして実施できるようにすることをお願いしてきています。

近年、地域のスポーツクラブと連携する部活動が増えてきています。中学生期のスポーツ活動を地域で保障できるシステムが構築されつつあることは望ましいことなのですが、場合によっては、地域のスポーツクラブと部活動の構成メンバーが全く同じであり、それらの組織、活動の境界がない状態について、問題を指摘する声もあります。部活動は学校の管理下で行なわれる活動なので、一定の枠の中で活動が行なわれるのですが、地域のスポーツクラブは任意の組織であるため、何ら制約を受けず、ともすると活動量が多くなり、生徒、教師ともに疲労困憊の状態にあるというのです。

最近の理論では、練習時間は長ければよいというのではなく、その質が問われるとともに、休養や栄養のバランスも大切であるということが指摘されています。また、地域のスポーツクラブの活動量を問題視し、休日の活動を、あえて、部活動に戻して行なうという例も見られるようになってきています。

部活動や地域のスポーツクラブなど、中学生期のスポーツ活動は、生徒の心身の健全な育成を目指して行なわれるべきであり、それは、生徒のバランスの取れた生活と、成長を保障するものでなければなりません。勝つことのみを重視した活動とならないよう、地域・家庭・学校がともに知恵を絞り合い、生徒にとって、そして、その地域にとって、最も望ましいスポーツ環境を整えていくことが大切です。